

Pink Ribbon 乳がん一回メモ 91 「アイリスの会」のお知らせ

か しま病院では、乳腺疾患患者さまの交流の場として「アイリスの会」を開催しており、発足して6年目を迎えました。

みなさんは「アイリス」という花をご存知ですか？アヤメ科で、暑さや寒さ・乾燥に強く、多年草なので一度植え付ければ何年でも続けて楽しむことができる、丈夫で育てやすい植物です。

花言葉は、「信じる心」「あなたを大切にします」「メッセージ」といった、愛を伝えるものになっています。患者会のみなさんはこれらの意味に思いをこめて「アイリスの会」と名付けました。

同じ病気や症状など、何らかの共通する患者体験を持つ人たちが集まり、患者さん主体で運営しています。お互いの悩みや不安を共有したり、情報を交換したり、気軽に本音で語り合える。また、自分の体験がほかの患者さんを支援する力になることを望んでいます。

私たち医療従事者もほんの少しお手伝いさせていただいております。

今年度のスケジュールを参考に、ご参加お待ちしております。

乳腺疾患チーム 鈴木 則子・飯ヶ谷 奈央子

アイリスの会 2017年スケジュール
毎月第3水曜日 かしまコミュニティーホール

日程	一部(14:00~14:30)	二部(14:30~)
2月15日(水)	これでわかった！検査値のみかた	フリートーク
3月15日(水)	何が本当なの？食事のポイント	
4月19日(水)	自分を癒そう！アロマセラピー	
5月17日(水)	髪のケアについて	
6月21日(水)	これならできる！リンパ浮腫ケア	
7月19日(水)	七夕会	
8月16日(水)	これで安心！薬のあれこれ	フリートーク
9月20日(水)	ワンポイント講座！最近の話題	
10月18日(水)	すぐに役立つ！副作用対策	
11月15日(水)	お化粧のポイント	
12月20日(水)	クリスマス会	

*参加費無料 (7月、12月は500円程度予定)



Pink Ribbon

Pink Ribbon

Pink Ribbon

Pink Ribbon

パラリンピックに思う

健障同列

オリンピックとパラリンピックを区別するのではなく、一体化させよう、競技種目を工夫しよう

障害者スポーツの目的はどこにあるのでしょうか。障害の有無に関係なく人間が等しくスポーツを楽しむことにあると思います。障害者スポーツは2種類に分けられます。障害を克服するスポーツと、障害がハインディにならないスポーツです。足を切断した人が義足で補うようなスポーツは前者であり、足に障害のある人が腕相撲をするようなのは後者に当たります。ところが、後者のようなスポーツはオリンピックでは見かけません。前者のようなスポーツが見る人には感動を与えるようです。障害を克服したとして、しかし、障害とは克服すべきものでしょうか。障害と共存するという生き方もあります。現実に、目の悪い人は聴覚が鋭くなり、手の不自由な人は足で字を書いたりします。嘗て人類は障害を代替機能で補って克服してきましたが、科学の進歩は障害そのものを矯正することを可能にしました。義足の進歩は跳躍力の点で健全な足を凌駕しました。人工知能が進歩すればやがては本物の裸眼視力より全盲者のほうが動体視力などは良くなるかもしれません。



目の悪い人に伴走者をつけてマラソンなどもやっているようですが、自立した競技にすべきではないでしょうか。どうしてもというのならアイマスクをつけた人と健全者のペアが二人三脚のように走るとか、健全者には鈴をつけ視覚障害者がそれを頼りに併走するとか、競技を工夫したら健障同列になります。

現在のパラリンピックは人工臓器の機能を争っている面があるようです。障害者(という選ばれた人)に限定された集団が人工物の機能競争をしているとも言えます。走り幅跳びなどでは、オリンピックよりパラリンピックのほうが好記録が出るようになっており、これに違和感を感じている方も少なくないと思います。

これを解決するには、ジャンプの踏み切りを義足でなく健側に義務付けるという方法があります。あるいは、ジャンプ競技はパラリンピックから撤退させることです。車椅子バスケットもパラリンピックから撤退すべきだと思います。どうしてもというのなら、健全者にも門戸を広げ、正式にオリンピック種目に入れたらどうでしょうか。五体満足でない人はオリンピックには出場できないなどという規則は無いはずですが、右手に障害のあるアボット投手が、アメリカの大リーグで活躍しました。障害を特権と考えず健全者と対等に戦ったのですから驚異的でした。でも、これこそが健全者と障害者の共存社会ではないでしょうか。上肢の不自由な人のためには、上肢機能不全があってもハンディにならないような下肢の競技を。下肢の不自由な人のためには、上肢を使う競技をオリンピックの競技種目に取り入れればよいわけです。視力障害にはいろいろの程度があるようので、パラリンピック内ですら、アイマスクを義務つけられているようですが、アイマスクをつければ健全者も参加させてあげればよいでしょう。

(呼吸器科 部長 山根 喜男)

